

< 他集落との連携、高齢農家等への支援に取り組む事例 >

新協定として新たにスタートした取組

1 . 集落協定の概要

市町村・協定名	山口県 ^{さんようおのだし} 山陽小野田市・川上 ^{かわかみ}			
協定面積 7.3ha	田 (99%)	畑 (1%)	草地	採草放牧地
	水稻 大豆			
交付金額 171万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	役員報酬		3%
		災害復旧費		3%
		農道・水路の維持管理費		19%
		積立金		18%
その他		7%		
協定参加者	農業者12人、農事組合法人川上営農組合（構成員45人）			開始：平成23年度

2 . 取組に至る経緯

奥の浴集落と宗末集落は、山陽小野田市の北部に位置し、今年度よりその2集落の協定が合併し川上集落協定が締結された。合併理由としては、農事組合法人の設立というものがあげられる。

平成22年度に設立された農事組合法人川上営農組合には、奥の浴集落協定と隣接する宗末集落協定が参加しており、法人内で助け合っていこうという意識のもと、宗末集落協定の人々が奥の浴集落協定をサポートするという形で新しい協定が誕生した。

名前も、奥の浴、宗末どちらか一方のものを協定名として残すのではなく、あえて「川上」という名前にすることにより、協定参加者に新しい協定となり1つとなって頑張っていこうという意味合いも込めてこの協定名にした。

3 . 取組の内容

協定を合併したことで、人手不足等の理由により奥の浴集落の人たちだけでは手が回らなかったところまで管理が行き届くようになり、サポート体制がうまく整ってきた。また、法人が協定面積の約80%を集積しており、水稻作のほか、大豆などへの転作も積極的に行っている。

この地域は鳥獣の被害も増しているが、13カ所の電気柵の設置やネットを1.3km張るなど被害を最小限に抑えるよう努力している。これら対策のほとんどは法人主体で行っているものだが、個人で行っているところも山際まできちりとネットを張るなどして地域が一体となった防除を行っている。最近ではシカの姿も見かけるようになりその対策も行っている。

また、昨年(H22)、一昨年(H21)の豪雨災害によりほ場や農道、水路等が破損したため、交付金を利用した修繕作業にも取り組んでいる。



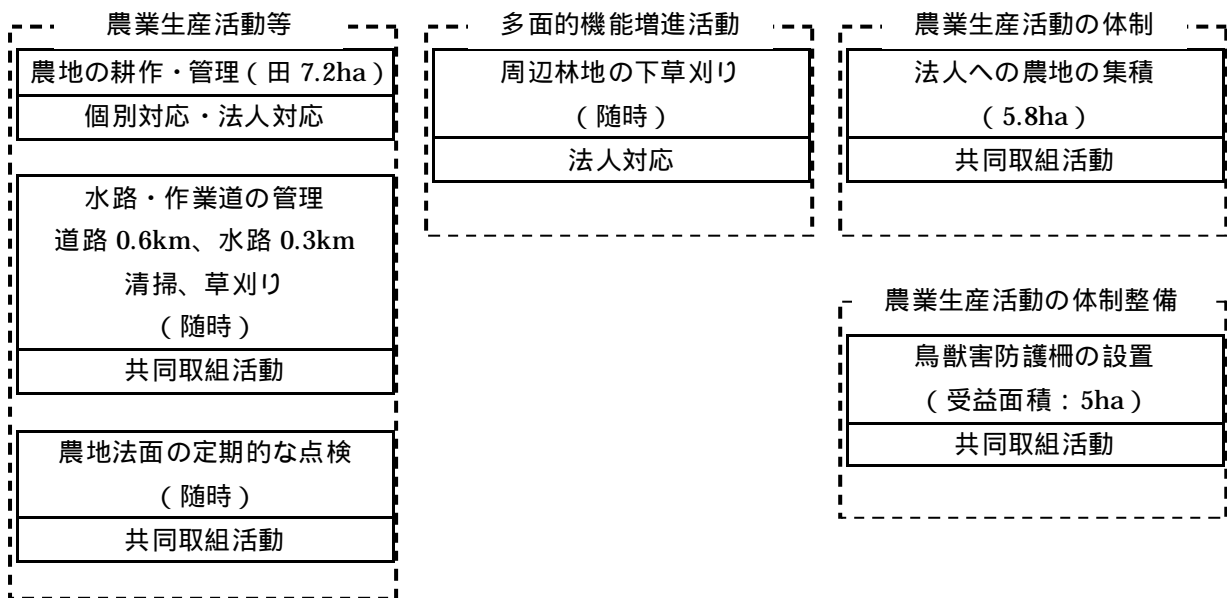
【集落の風景】



【作業風景】

[集落の将来像]
5年後、次世代の人たちが営農しやすい環境の整備

[将来像を実現するための活動目標]
農道・水路の補修
鳥獣被害対策



4 . 今後の課題等

農事組合法人自体に後継者は多くいるが、川上集落協定は後継者不足であり、その確保や法人でのフォローアップ体制づくりをこれからどうしていくかが課題である。年々鳥獣被害が増加しているので、重点地区を決めるなど計画的に防除していく。耕作放棄地が協定農用地近くに点在しており、放っておくとイノシシの巣になるので、協定内で話し合い、解消の方法を決めていく。

[第2期対策の主な成果]
積立金による農道、水路の改修
鳥獣害防護柵の設置